

2025 年度 医療科学部 IR 報告書

— 2024 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査（学生自己評価）—



藤田医科大学 IR 推進センター
医療科学部 IR 分室

2025 年 6 月 3 日

藤田医科大学 IR 推進センター
医療科学部 IR 分室

2025 年度 医療科学部 IR 報告書

2024 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査（学生自己評価）

2025 年度 医療科学部 IR 報告書

「2024 年度 卒業生を対象とした ディプロマ・ポリシー到達度調査（学生自己評価）」について

本学の教育目標を達成するため、教育および学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田医科大学 I R (Institutional Research) 推進センターが設置されています。今回、下部組織の医療科学部 I R 分室では、2024 年度の医療科学部の卒業生を対象とした医療科学部および各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度に関する自己評価アンケートを行いましたので、その集計・分析結果について報告いたします。

2025 年 6 月 3 日

2025 年度 藤田医科大学 I R 推進センター 医療科学部 I R 分室
武藤晃一、坪井良樹、白川誠士、村川のぞみ、岩井芳弘

目 次

1. 分析結果の概要	1
2. ディプロマ・ポリシーについて	2
2-1) 学部ディプロマ・ポリシー	2
2-2) 学科ディプロマ・ポリシー	3
3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度	4
3-1) アンケート調査方法	4
3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析	6
3-2-1) 学部全体としての分析	10
3-2-2) 学科間の比較	11
3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析	14
3-3-1) 医療検査学科	14
3-3-2) 放射線学科	16
3-4) 経時的分析	17
4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度	20
4-1) アンケート調査方法	20
4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析	20
4-2-1) 医療検査学科	20
4-2-2) 放射線学科	24
4-3) 経時的分析	26
4-3-1) 医療検査学科	26
4-3-2) 放射線学科	28

1. 分析結果の概要

本学の教育のさらなる質の向上をめざし、学生が実感している学修の到達度を明らかにすることを目的として、2024 年度卒業生を対象に医療科学部ディプロマ・ポリシーおよび所属する各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度について、自己評価アンケート調査を行い、集計・分析を行った。

医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価は、学部全体の集計結果では、全ての DP 項目について中央値が「5：概ね修得できた」となった。昨年度までの 3 年間の調査では、DP4（解決力）の自己評価の中央値は「4：最低水準は修得できた」となっていたが、今年度調査では改善が認められた。学科間で比較すると、自己評価の中央値は全ての DP 項目で同一であったが、平均値は放射線学科の方が高い値を示す DP 項目が多くなった。これは昨年度と同様の傾向であった。

また、過去 5 年間の経年的な傾向は、自己評価の平均値については全 DP 項目で変化は小さく安定していた。2023 年度から 2024 年度においては、全 DP 項目で平均値が上昇した。評価の割合については、2020 年度から 2024 年度にかけて全ての DP 項目で「5：概ね修得できた」とする評価の割合がやや増加傾向を示した。「6：完全に修得できた」と評価する割合は、2020 年度から 2022 年度にかけて全ての DP 項目で減少傾向を示していたが、2022 年度以降は徐々に上昇傾向を示した。2023 年度から 2024 年度では、全ての DP 項目で「6：完全に修得できた」の割合が、また DP1 と DP2 以外の DP 項目で「5：概ね修得できた」の割合が増加し、全ての DP 項目で「4：最低水準は修得できた」の割合が減少した。

各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価については、医療検査学科では全ての DP 項目の中央値が「5：概ね修得できた」となった。昨年度までは DP6（国際探求）の中央値が「4：最低水準は修得できた」を示す傾向であり、今年度は改善が認められた。

「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」以下と評価した割合は DP6（国際探求）のみ 12.8% と 10% を超えたが、それ以外の DP 項目では 10% 未満となった。これは昨年度調査と同様の傾向であった。放射線学科においても全ての DP 項目の中央値が「5：概ね修得できた」となった。昨年度までは DP5（国際探求）の中央値が「4：最低水準は修得できた」を示す傾向であり、今年度は改善が認められた。「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」以下と評価した割合は、全ての DP 項目で 10% 未満であった。昨年度調査では DP5（国際探求）のみ 10% を超えていたが、今年度では改善が認められた。

また、過去 5 年間の経年的な傾向としては、医療検査学科では各 DP 項目の各年における学生自己評価の平均値はほぼ等しく、2023 年度から 2024 年度では各 DP 項目で平均値が上昇した。放射線学科では、過去 4 年間に着目すると、全ての DP 項目で年ごとに平均値が上昇する傾向が認められた。経年的な回答割合の変化では、医療検査学科において、「5：概ね修得できた」および「6：完全に修得できた」の回答割合が上昇傾向、「4：最低水準は修得できた」の回答割合が減少傾向を示した。放射線学科では、医療検査学科と比べて各年の自己評価の割合のばらつきが大きい傾向が認められた。過去 4 年間においては「5：概ね修得できた」および「6：完全に修得できた」の回答割合が上昇傾向、「4：最低水準は修得できた」の回答割合が減少傾向を示した。

2. ディプロマ・ポリシーについて

ディプロマ・ポリシー (Diploma Policy) とは、高等教育機関における卒業認定・学位授与に関する方針である。

藤田医科大学では学部レベルと学科レベルにて、学生が卒業する時に最低限身につけているべき知識・理解・思考・判断・興味・関心・態度・技能・表現について具体的にまとめ、これをディプロマ・ポリシーとして設定し、公表している。ディプロマ・ポリシーは、本学の教育に関する質保証に資するために策定される。

2-1) 学部ディプロマ・ポリシー

医療科学部では、学部レベルのディプロマ・ポリシーを策定している。2024年度卒業生に対する学部ディプロマ・ポリシーについて表2-1に示す。

表2-1. 医療科学部ディプロマ・ポリシー

医療科学部は、臨床検査学、放射線学、臨床工学および医療経営情報学の専門的教育と研究の過程を経て、以下のような能力と素養を身につけた学生に対して学士の称号を与えます。

(知識・理解)

- 1) 医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得している。
- 2) 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけている。

(思考・判断)

- 3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができる。
- 4) 国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができる。

(興味・関心)

- 5) 科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができる。

(態度)

- 6) 患者および地域住民の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができる。

(技能・表現)

- 7) 専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用、提供することができる。
 - 8) 患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、チームの一員として役割を果たすことができる。
-

2-2) 学科ディプロマ・ポリシー

医療科学部の各学科においてもディプロマ・ポリシーを設定し、教育の質保証に努めている。医療科学部の医療検査学科のディプロマ・ポリシーを表2-2、放射線学科を表2-3に示す。

表2-2. 医療検査学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、医療検査学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験を合格した学生に『学士（医療検査科学）』の学位を授与します。

卒業試験は下記の能力が身についていることを総合的に判断するものです。よって、医療検査学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 幅広い教養を身に付け、臨床検査および臨床工学を実践するために必要な知識と技能を有する。
 - 2) 医療人として生命の尊さを深く認識し、倫理観と責任感をもって、謙虚で誠実に医療を実践することができる。
 - 3) 医療職種の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員として患者中心の専門職連携を実践することができる。
 - 4) 地域医療の重要性を理解し、臨床検査学・臨床工学を通じて地域と連携した医療・福祉を実践し、社会に貢献することができる。
 - 5) 常に進歩し続ける医学・臨床検査学・臨床工学に関心を有し、生涯にわたり自ら成長することができる。
 - 6) 科学的探究心をもち、グローバルに活躍できる素養を有する。
 - 7) 医学・臨床検査学・臨床工学に関する問題や課題の発見とその解決に向け、科学的根拠に基づいた思考や判断をすることができる。
-

表2-3. 放射線学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、放射線学科に4年以上在学し、卒業要件を満たした学生に『学士（診療放射線技術学）』の学位を授与します。

放射線学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣いや礼節を身につけている。
 - 2) チーム医療の一員として他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、優れたコミュニケーション能力を有する。
 - 3) 診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できる高度な知識と技術を有する。
 - 4) 診療放射線技術科学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を発揮して放射線関連業務に携わることができる。
 - 5) 医療科学における真理の探求心と創造力を兼ね備え、診療放射線技術学に関する国際的視野を有する。
-

3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度

3-1) アンケート調査方法

医療科学部の2024年度4年生を対象として、医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度を、学生自身に評価させるアンケート調査を実施した。アンケート調査は「医療科学部・保健衛生学部 Moodle」の「アンケート」機能により実施し、医療科学部ディプロマ・ポリシーの各項目（計8項目）を設問として、それに対する自らの到達度を6段階で自己評価させた。

アンケート調査は、2024年度4年生が卒業する前の2025年1～2月中に各学科の事情に合わせ、学生に対してMoodleでの入力を促した。

アンケート調査項目である医療科学部ディプロマ・ポリシーを表3-1、達成度の6段階の評定尺度を表3-2に示す。

表3-1. アンケート調査の設問項目：医療科学部ディプロマ・ポリシー

DP1 (専門知識)	医療人としての専門分野の学修内容について知識が修得できましたか。
DP2 (倫理教養)	人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養が身につきましたか。
DP3 (科学行動)	対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と的確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができるようになりましたか。
DP4 (解決力)	国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができるようになりましたか。
DP5 (生涯学習)	科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができますか。
DP6 (責任感)	患者および住民の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができますか。
DP7 (専門技能)	専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して的確かつ安全に適用することができますか。
DP8 (コミュニケーション)	患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションを取り、チームの一員として役割を果たすことができますか。

表3－2. アンケート調査に用いた到達度の評定尺度（6段階）

6 : 完全に修得できた
5 : 概ね修得できた
4 : 最低水準は修得できた
3 : ある程度修得したが、最低水準には届かない
2 : 十分に修得できていない
1 : 全く修得できていない

3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析

2024 年度医療科学部 4 年生を対象とした医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、アンケート調査（卒業生 238 名中 238 件：回収率 100%）の回答の度数分布を表 3-3 に示す。学部全体としての各設問に対する評定尺度毎の回答結果のヒストグラムを図 3-1 に示す。各設問に対する回答の割合を図 3-2 に示す。

表 3-3. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価アンケート結果
度数分布

DP1 (専門知識)		学部	検査	放射	DP5 (生涯学習)		学部	検査	放射
6		31	17	14	6		28	15	13
5		155	103	52	5		152	98	54
4		46	24	22	4		47	27	20
3		4	2	2	3		8	6	2
2		1	1	0	2		2	1	1
1		1	1	0	1		1	1	0
DP2 (倫理教養)		学部	検査	放射	DP6 (責任感)		学部	検査	放射
6		41	22	19	6		42	22	20
5		166	99	67	5		151	94	57
4		26	22	4	4		36	25	11
3		3	3	0	3		6	4	2
2		1	1	0	2		2	2	0
1		1	1	0	1		1	1	0
DP3 (科学行動)		学部	検査	放射	DP7 (専門技能)		学部	検査	放射
6		32	18	14	6		37	23	14
5		161	101	60	5		156	96	60
4		39	24	15	4		37	24	13
3		4	3	1	3		6	3	3
2		1	1	0	2		1	1	0
1		1	1	0	1		1	1	0
DP4 (解決力)		学部	検査	放射	DP8 (コミュ力)		学部	検査	放射
6		19	12	7	6		49	23	26
5		130	85	45	5		153	101	52
4		64	35	29	4		29	18	11
3		20	12	8	3		4	4	0
2		5	4	1	2		2	1	1
1		0	0	0	1		1	1	0

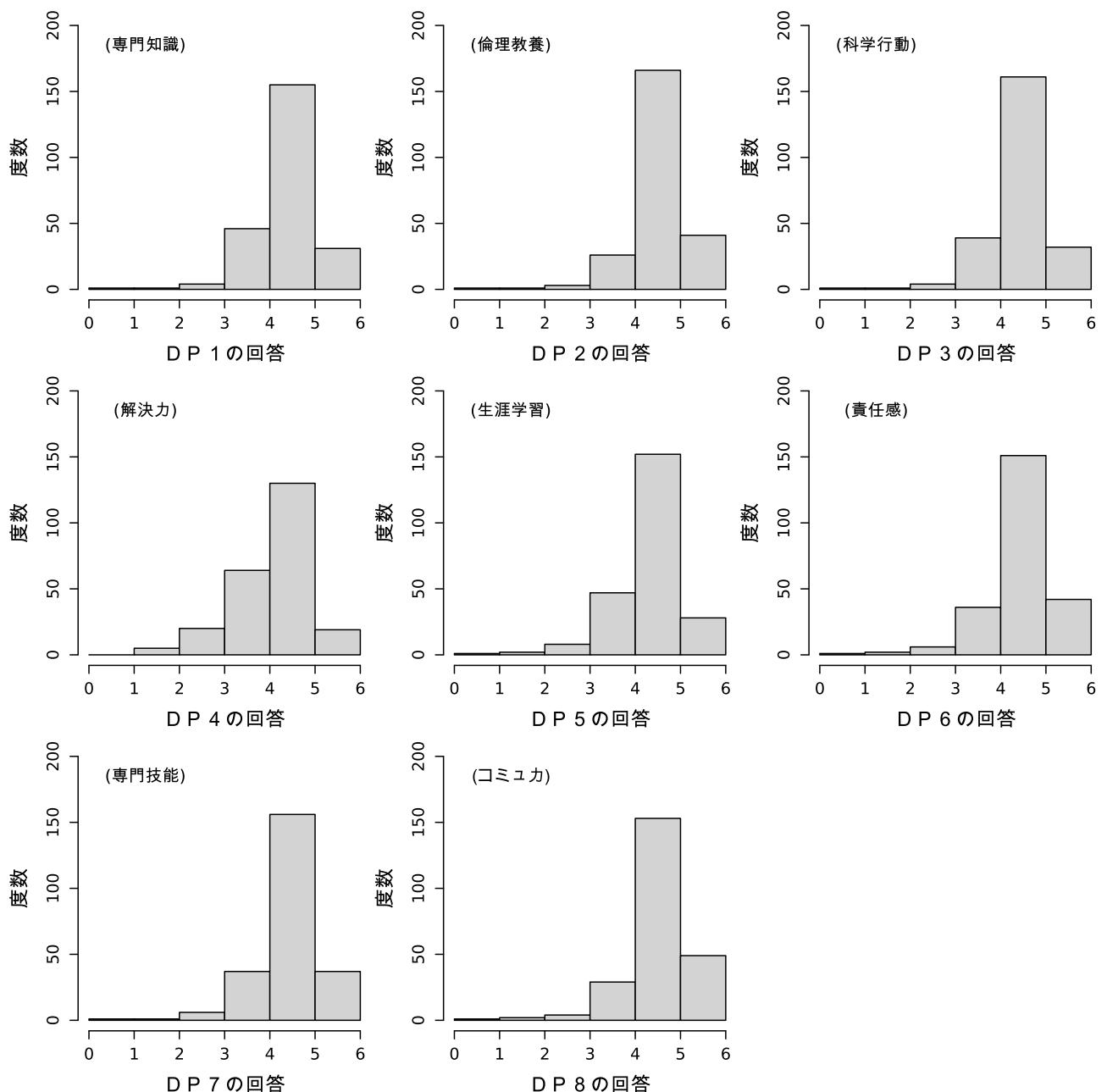


図3-1. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 学部全体の回答分布

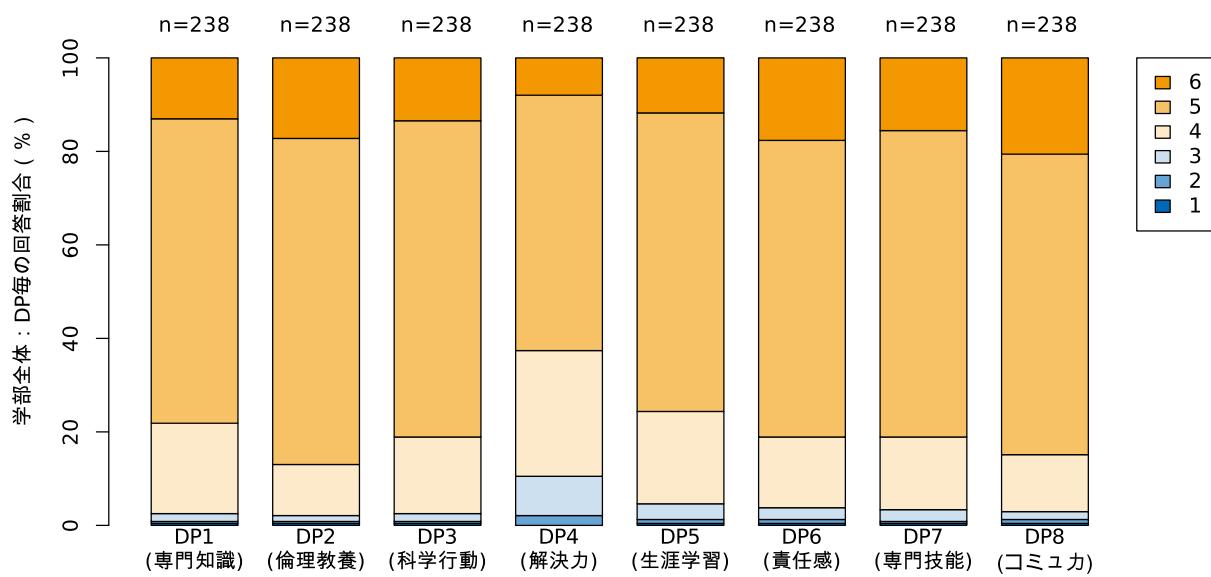


図3－2. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 設問毎の回答割合

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行う。回答結果について、学部全体および学科ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表3－4に示す。各ディプロマ・ポリシー項目（以下、DP1～DP8）について、学部全体の回答の平均値をレーダーチャートとして図3－3に示す。

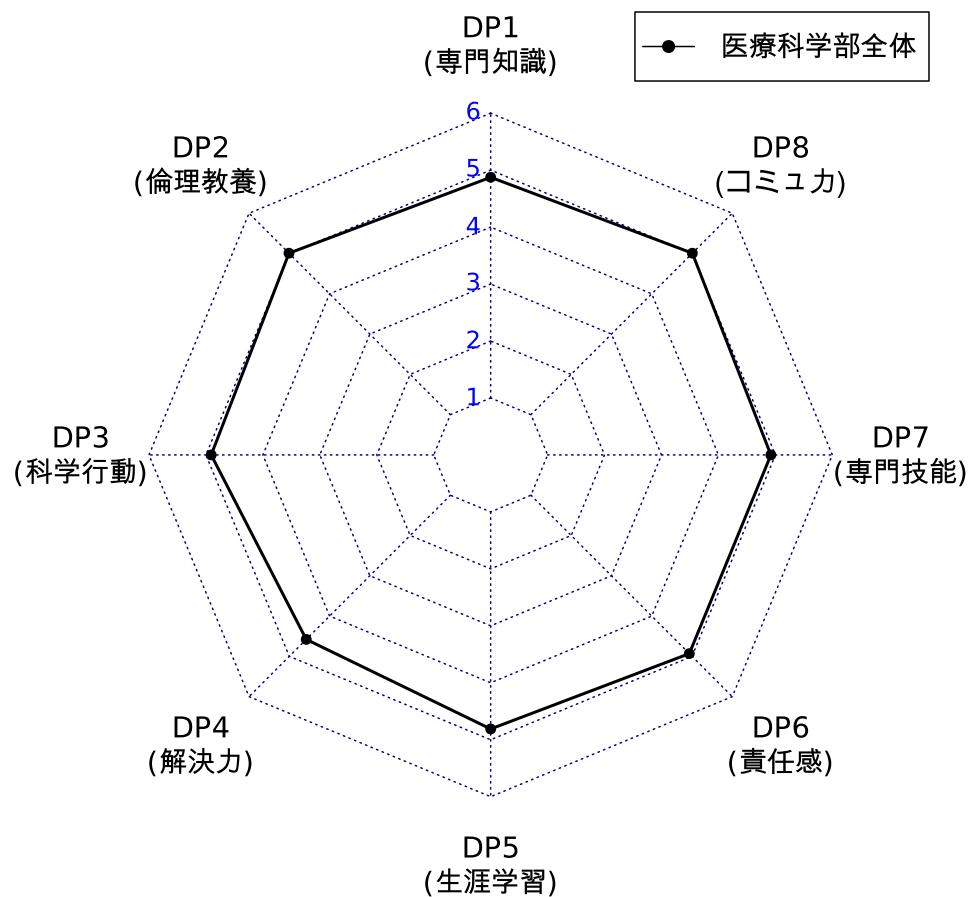


図3－3. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 評定値の平均値

表3－4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量

DP1 (専門知識)		DP5 (生涯学習)					
	学部	検査	放射		学部	検査	放射
平均値	4.87	4.88	4.87	平均値	4.81	4.79	4.84
標本SD	0.69	0.70	0.69	標本SD	0.75	0.76	0.73
中央値	5	5	5	中央値	5	5	5
最大値	6	6	6	最大値	6	6	6
最小値	1	1	3	最小値	1	1	2
n	238	148	90	n	238	148	90

DP2 (倫理教養)		DP6 (責任感)					
	学部	検査	放射		学部	検査	放射
平均値	5.01	4.91	5.17	平均値	4.93	4.86	5.06
標本SD	0.66	0.73	0.48	標本SD	0.75	0.80	0.66
中央値	5	5	5	中央値	5	5	5
最大値	6	6	6	最大値	6	6	6
最小値	1	1	4	最小値	1	1	3
n	238	148	90	n	238	148	90

DP3 (科学行動)		DP7 (専門技能)					
	学部	検査	放射		学部	検査	放射
平均値	4.91	4.87	4.97	平均値	4.92	4.91	4.94
標本SD	0.68	0.72	0.60	標本SD	0.71	0.75	0.66
中央値	5	5	5	中央値	5	5	5
最大値	6	6	6	最大値	6	6	6
最小値	1	1	3	最小値	1	1	3
n	238	148	90	n	238	148	90

DP4 (解決力)		DP8 (コミュ力)					
	学部	検査	放射		学部	検査	放射
平均値	4.58	4.60	4.54	平均値	5.01	4.93	5.13
標本SD	0.84	0.85	0.80	標本SD	0.73	0.74	0.70
中央値	5	5	5	中央値	5	5	5
最大値	6	6	6	最大値	6	6	6
最小値	2	2	2	最小値	1	1	2
n	238	148	90	n	238	148	90

3-2-1) 学部全体としての分析

2024年度4年生の医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価の平均値は8項目でほぼ等しく、DP4(解決力)の4.58±0.84から、DP8(コミュ力)の5.01±0.73の範囲となった。中央値は8項目全てで「5：概ね修得できた」となった。到達度の自己評価が「2：十分に修得できていない」以下の回答は全回答中の1.16%（22／1,904件）と少数であり、「4：最低水準は修得できた」以上の回答は全回答中の96.0%（1,827／1,904件）

と、卒業時の到達点として定めたディプロマ・ポリシーについて「最低水準は修得できた」以上と自己評価する学生が大多数を占めた。

昨年度の同調査においては、DP1～DP3, DP5～DP7 の中央値は「5：概ね修得できた」、DP4 のみ「4：最低水準は修得できた」であり、今年度調査では DP4（解決力）の改善が認められた。また、昨年度調査では「2：十分に修得できていない」以下と回答した学生は 1.06% (18/1,704 件)、「4：最低水準は修得できた」以上と回答した学生は 95.4% (1,626/1,704 件) であり、今年度の自己評価はほぼ同様の傾向を示した。

3-2-2) 学科間の比較

医療科学部ディプロマ・ポリシーの 8 項目について、項目ごとに回答された評定値の割合を学科間で比較したグラフを図 3-4 に示す。

DP1～DP8 における回答された評定値は、2 学科の間でほぼ同様の割合を示したが、放射線学科の方が「6：完全に修得できた」を回答する学生が多く、「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」以下を回答する学生は少ない傾向を示した。

医療科学部ディプロマ・ポリシーの DP1 項から DP8 項目について、学科間で回答された評定値の平均値を比較するグラフを図 3-5 に示す。

評定値の平均値は、DP1（専門知識）、DP4（解決力）においてはわずかであるが医療検査学科の方が、それ以外の DP2（倫理教養）、DP3（科学行動）、DP5（生涯学習）、DP6（責任感）、DP7（専門技能）、DP8（コミュ力）の 6 項目では放射線学科の方が高くなかった。医療科学部ディプロマ・ポリシーの各 8 項目について学科間で比較すると、医療検査学科より放射線学科の学生の方が、自己評価が若干ではあるが高い傾向を示した。これは 2024 年度調査より同様の傾向であった。

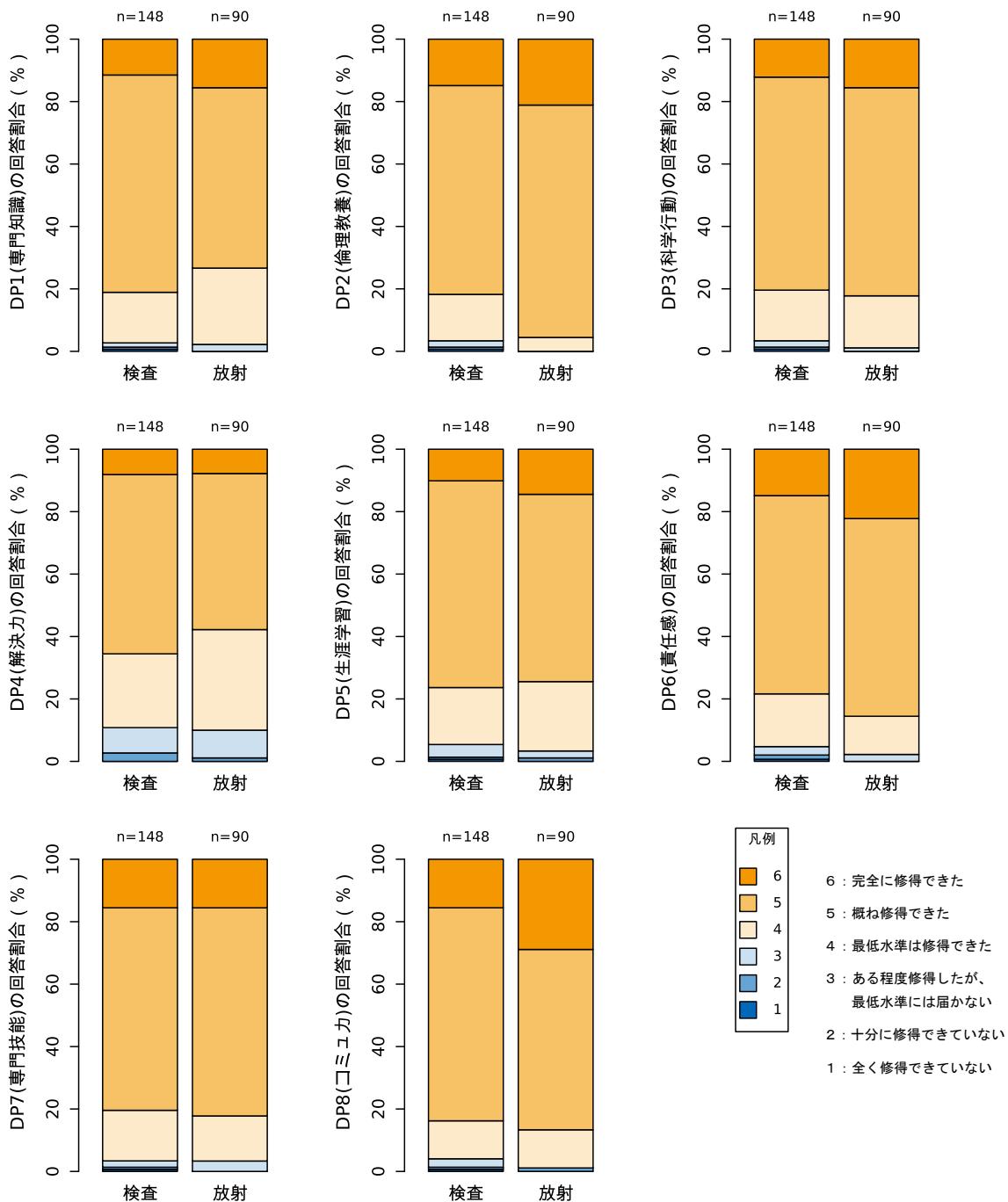


図3-4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー自己評価 回答割合の学科間比較（割合%）

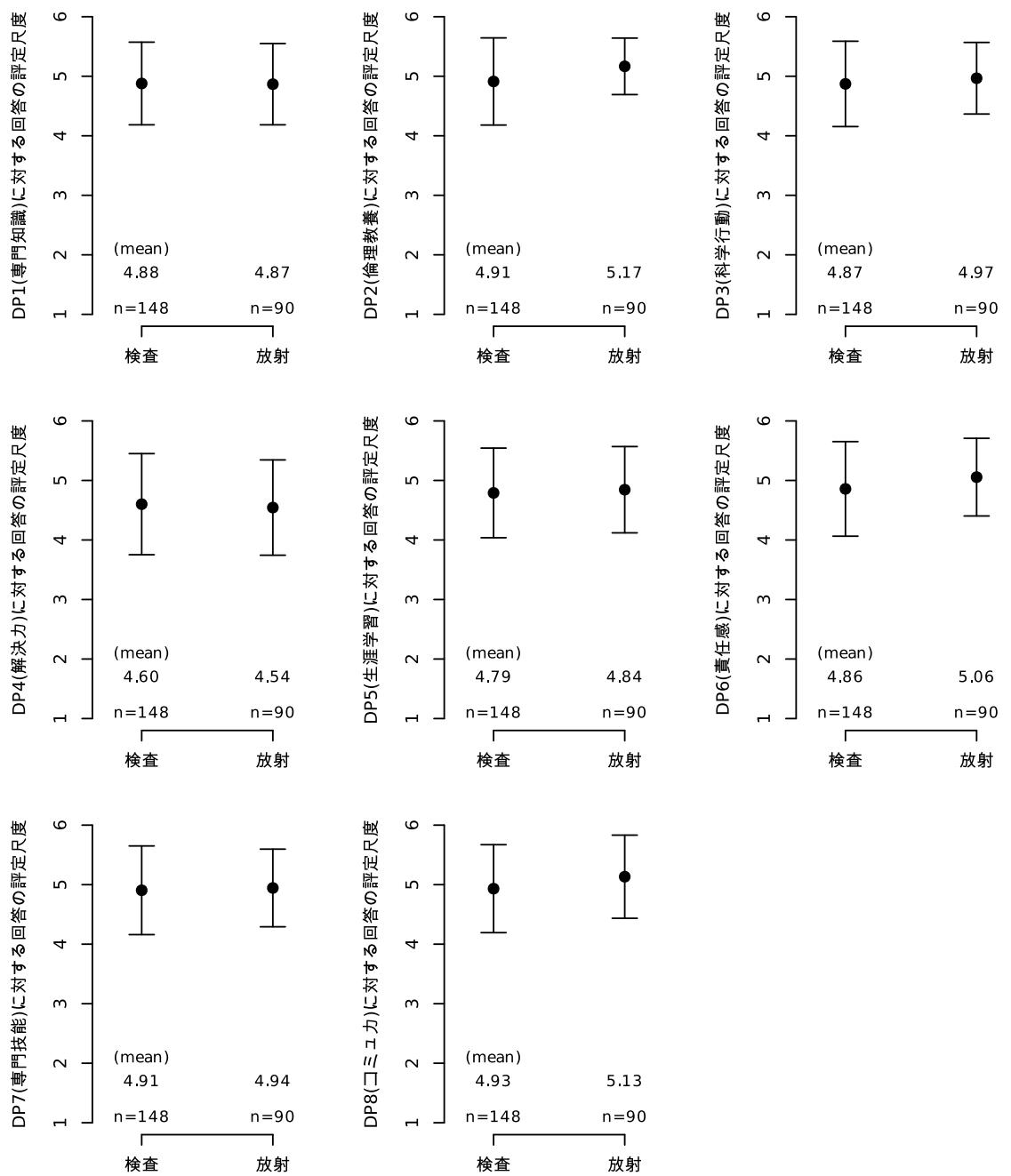


図 3-5. DP に対する回答の平均値の学科間比較

3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、学科ごとに調査結果の概要と到達度の分析を示す。

3-3-1) 医療検査学科

アンケート調査のDP1～DP8に対する回答結果（卒業生148名中148件：回収率100%）のヒストグラムを図3-6、DP項目毎の回答割合を図3-7に示す。DP1～DP8について、学部全体の回答の平均値と医療検査学科の回答の平均値を比較するレーダーチャートを図3-8に示す。

全てのDP項目で評定値の平均は学部全体とほぼ同一の値であったが、学部平均より下回る項目が多かった（学部平均値との差：-0.10～0.02、平均：-0.036）。学部平均値との差が最も差が大きかったDP項目はDP2（倫理教養）で、学部平均より-0.10低い値となった。

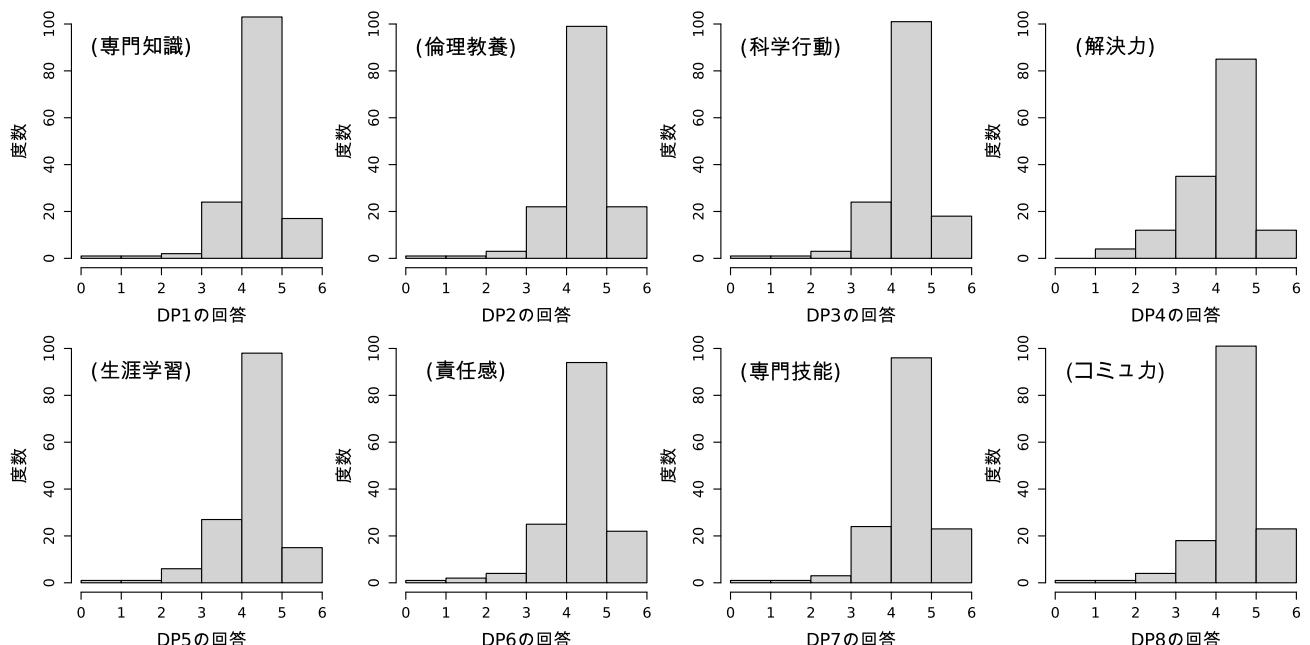


図3-6. 医療検査学科の回答分布

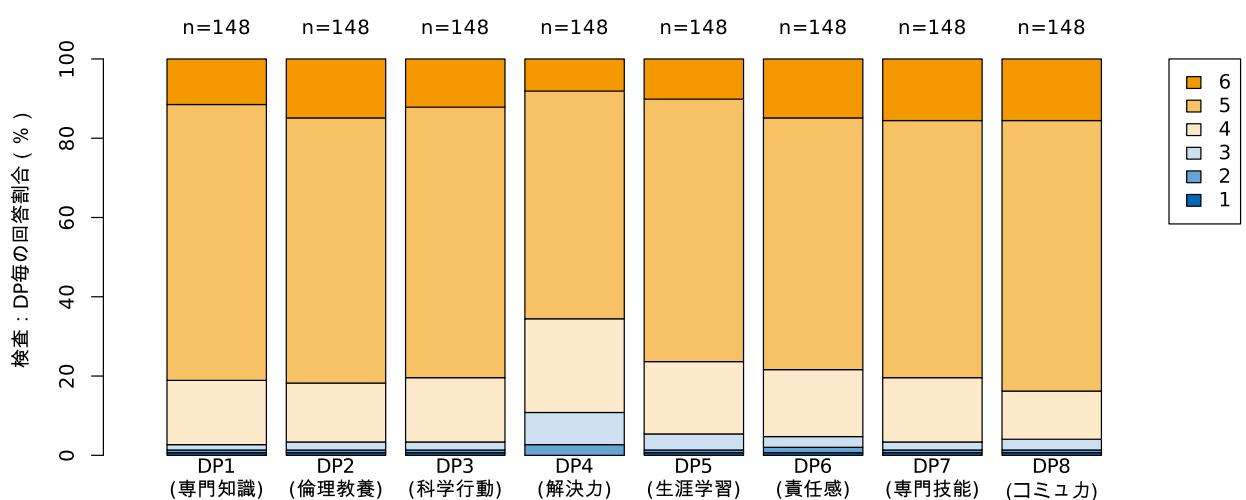


図3－7. 医療検査学科の医療科学ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
設問毎の回答割合

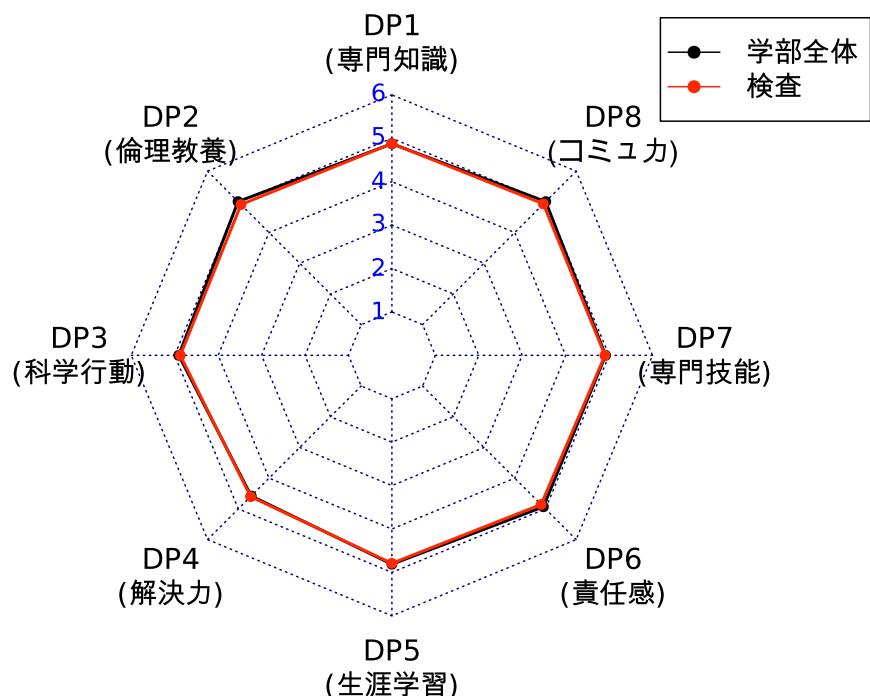


図3－8. 回答結果の医療検査学科と学部全体との比較（平均値）

3-3-2) 放射線学科

アンケート調査の DP1～DP8 に対する回答結果（卒業生 90 名中 90 件：回収率 100%）のヒストグラムを図 3-9、DP 項目毎の回答割合を図 3-10 に示す。DP1～DP8 について、学部全体の回答の平均値と放射線学科の回答の平均値を比較するレーダーチャートを図 3-11 に示す。

全ての DP 項目で評定値の平均は学部全体とほぼ同程度であるが、やや高い値を示す DP 項目が多かった（学部平均値との差：-0.04～0.16）。DP4（解決力）において学部平均値を僅かではあるが下回った（-0.04）。学部平均値との差が最も大きかった DP 項目は DP2（倫理教養）で、学部平均より 0.16 高い値となった。

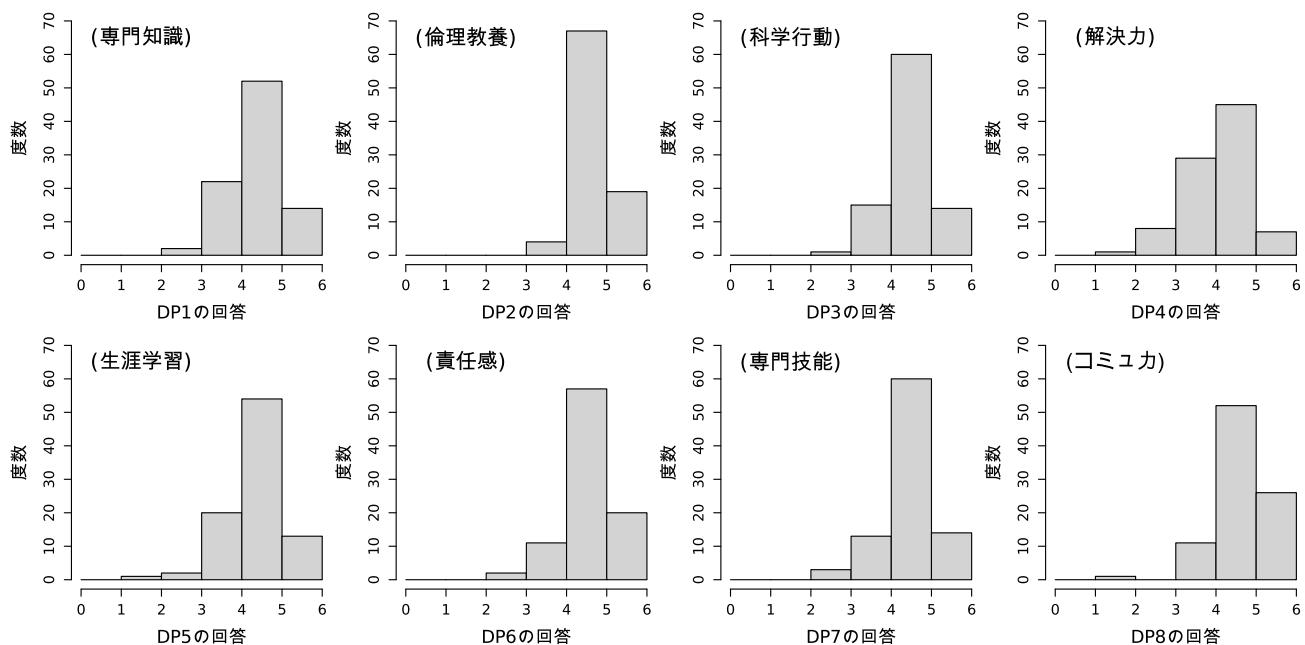


図 3-9. 放射線学科の回答分布

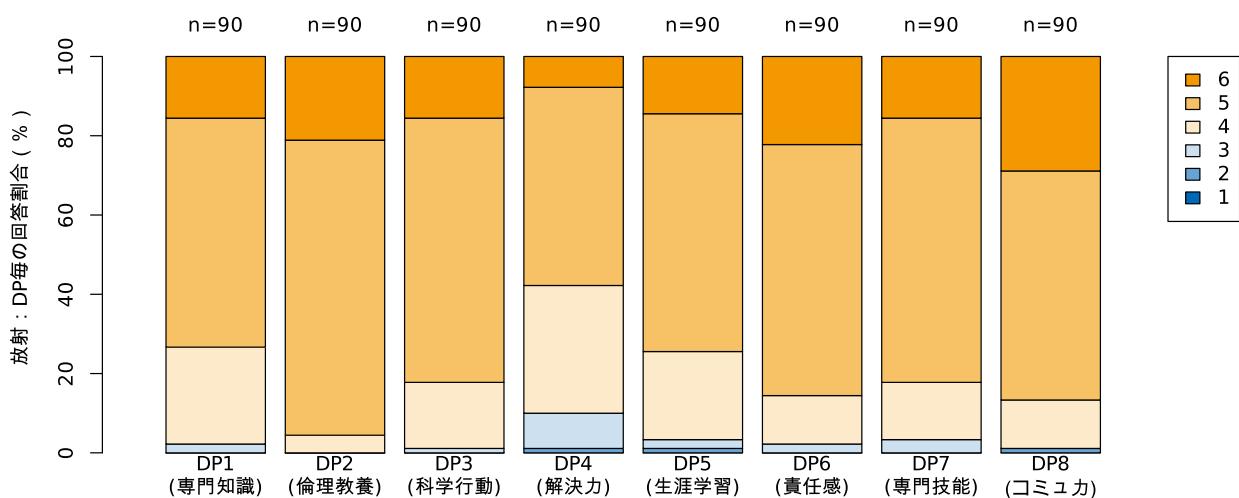


図 3-10. 放射線学科の医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果
DP 每の回答割合

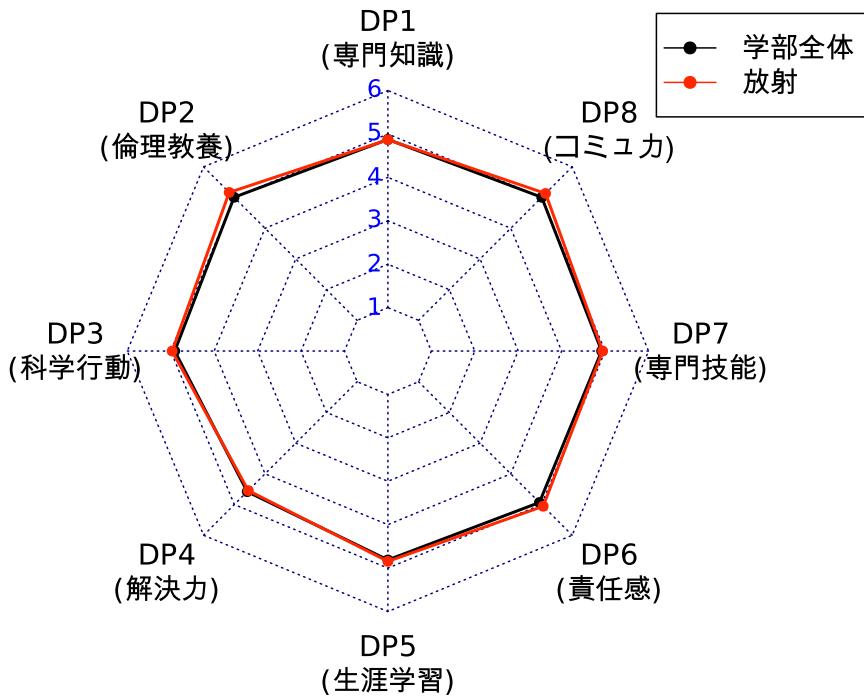


図3-11. 回答結果の放射線学科と学部全体との比較（平均値）

3-4) 経時的分析

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、2020年度から2024年度の5年間の学生自己評価による到達度調査の結果について、医療科学部全体での学生自己評価の平均値の推移を図3-12に示す。なお、2020年度、2021年度は臨床検査学科、臨床工学科および放射線学科の卒業生、2022年度から2024年度は医療検査学科（臨床検査学プログラムおよび臨床工学プログラム含む）および放射線学科の卒業生の回答データより学生自己評価の平均値を求めている。

各DP項目の学生自己評価の平均値について、各年における平均値はほぼ同じ値を示しており、安定していた。2023年度から2024年度においては、全てのDP項目において平均値の上昇が認められた。2021年度が最も低値となり、2024年度が最高値となった。

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、2020年度から2024年度の5年間の学生自己評価による到達度調査の結果について、各年の調査における1～6段階の自己評価の回答の割合の推移を図3-13に示す。なお、2020年度、2021年度は臨床検査学科、臨床工学科および放射線学科の卒業生、2022年度から2024年度は医療検査学科（臨床検査学プログラムおよび臨床工学プログラム含む）および放射線学科の卒業生の回答データより回答の割合を求めている。

2020年度から2024年度にかけて全てのDP項目で「5：概ね修得できた」とする評価の割合がやや増加傾向を示した。「6：完全に修得できた」と評価する割合は、2020年度から2022年度にかけて全てのDP項目で減少傾向を示していたが、2022年度以降は徐々に上昇傾向を示した。2023年度から2024年度においては、全てのDP項目で「6：完全に修得できた」の割合が、またDP1とDP2以外のDP項目で「5：概ね修得できた」の割合が増加し、全てのDP項目で「4：最低水準は修得できた」の割合が減少した。

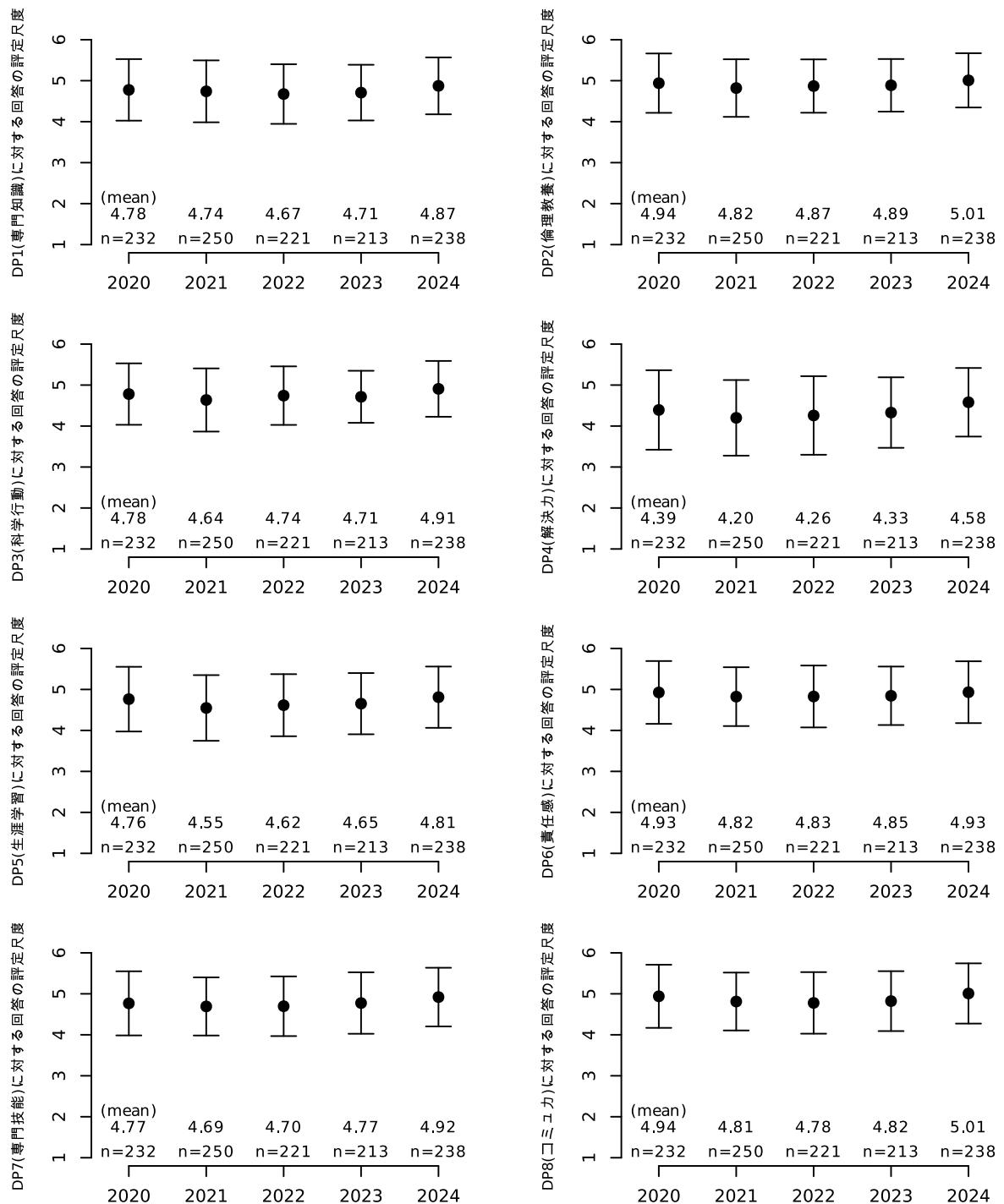


図3-12. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度自己評価（平均値）の推移

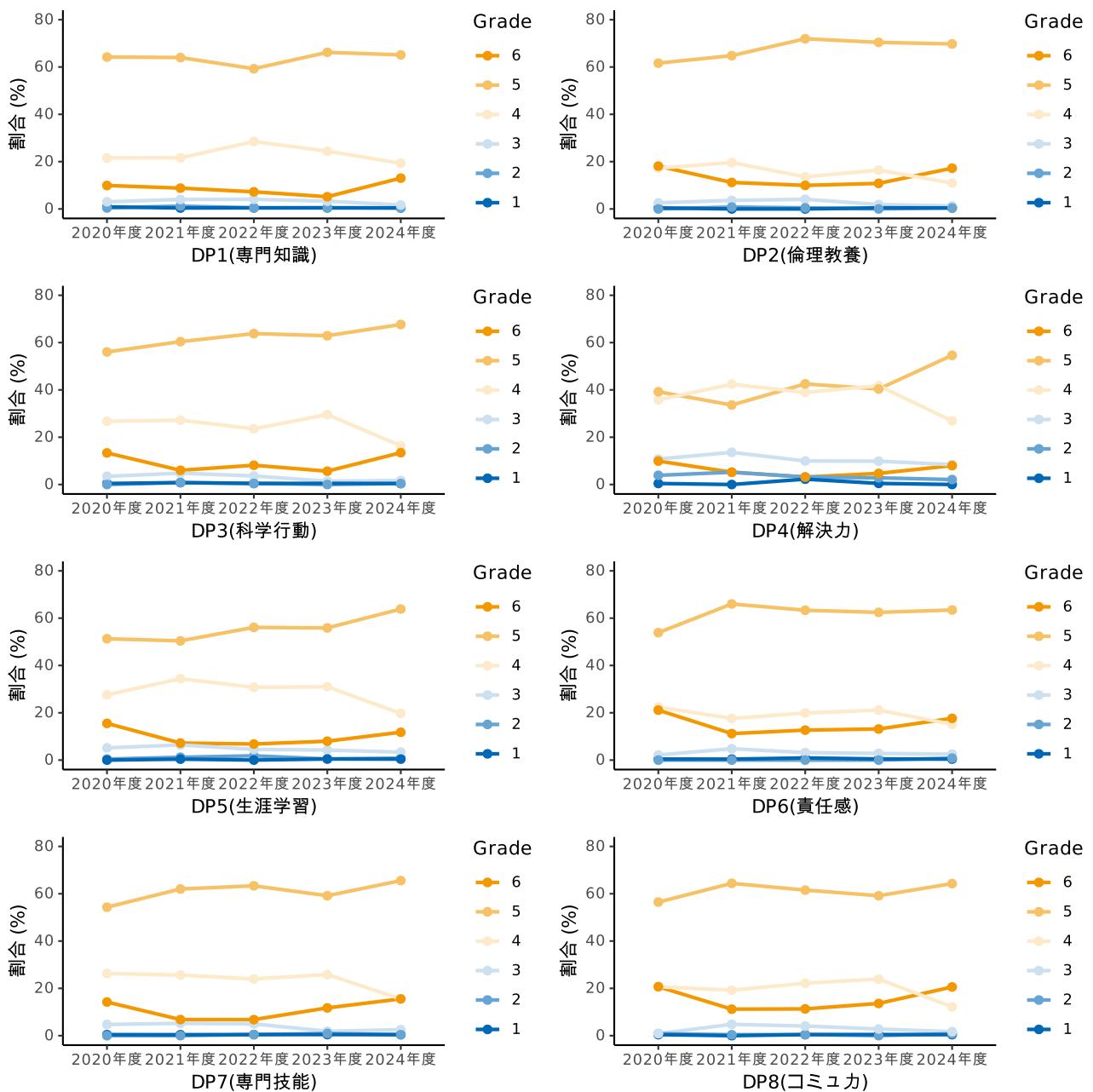


図3-13. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度自己評価の回答割合の推移

4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度

4-1) アンケート調査方法

医療科学部の 2024 年度 4 年生を対象として、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度を、学生自身に評価させるアンケート調査を実施した。アンケート調査は「医療科学部・保健衛生学部 Moodle」の「アンケート」機能により実施し、医療科学部ディプロマ・ポリシーの各項目（計 8 項目）を設問として、それに対する自らの到達度を 6 段階で自己評価させた。達成度の 6 段階の評定尺度を表 4-1 に示す。

表 4-1. アンケート調査に用いた到達度の評定尺度（6 段階）

-
- 6 : 完全に修得できた
 - 5 : 概ね修得できた
 - 4 : 最低水準は修得できた
 - 3 : ある程度修得したが、最低水準には届かない
 - 2 : 十分に修得できていない
 - 1 : 全く修得できていない
-

アンケート調査は、2024 年度 4 年生が卒業する前の 2025 年 1 ~ 2 月中に各学科の事情に合わせ、学生に対して Moodle での入力を促した。

4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析

4-2-1) 医療検査学科

アンケート調査項目（医療検査学科ディプロマ・ポリシー）を表 4-2 に示す。

2024 年度医療検査学科 4 年生を対象とした医療検査学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、DP1～DP7 に対する評定尺度毎の回答結果（卒業生 148 名中 148 件：回収率 100%）のヒストグラムを図 4-1 に示す。各 DP に対する回答の割合を図 4-2 に示す。

アンケート回答結果について、簡便に 6 段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、DP ごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表 4-3 に示す。DP1～DP7 について、回答された評定値の平均値をレーダーチャートとして図 4-3 に示す。

2024 年度の医療検査学科 4 年生の医療検査学科ディプロマ・ポリシーに対する自己評価は、DP1～DP7 のいずれも評定値の平均値は「4 : 最低水準は修得できた」以上の回答が得られた。また中央値は、DP1～DP7 のいずれも評価項目で「5 : 概ね修得できた」となった。

DP1（知識技能）、DP2（倫理責任）、DP3（チーム医療）、DP4（地域貢献）、DP5（生涯学習）、DP7（判断解決）について「5 : 概ね修得できた」以上の回答をした学生の割合は約 80% であった。一方、DP6（国際探求）については「5 : 概ね修得できた」以上の回答をした学生の割合は約 60% であり、他の DP 項目と比べ自己評価が低い傾向にあった。

表4－2. アンケート調査のDP項目（医療検査学科ディプロマ・ポリシー）

DP1 (知識技能)	幅広い教養を身に付け、臨床検査および臨床工学を実践するために必要な知識と技能が身につきましたか。
DP2 (倫理責任)	医療人として生命の尊さを深く認識し、倫理感と責任感をもって、謙虚で誠実に医療を実践することができるようになりましたか。
DP3 (チーム医療)	医療職種の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員として患者中心の専門職連携を実践することができるようになりましたか。
DP4 (地域貢献)	地域医療の重要性を理解し、臨床検査学・臨床工学を通じて地域と連携した医療・福祉を実践し、地域社会に貢献することができるようになりましたか。
DP5 (生涯学習)	常に進歩し続ける医学・臨床検査学・臨床工学に関心を有し、生涯にわたり自ら成長することができるようになりましたか。
DP6 (国際探求)	研究的探究心をもち、グローバルに活躍できる素養が身につきましたか。
DP7 (判断解決)	医学・臨床検査学・臨床工学に関する問題や課題の発見とその解決に向け、科学的根拠に基づいた思考や判断をすることができるようになりましたか。

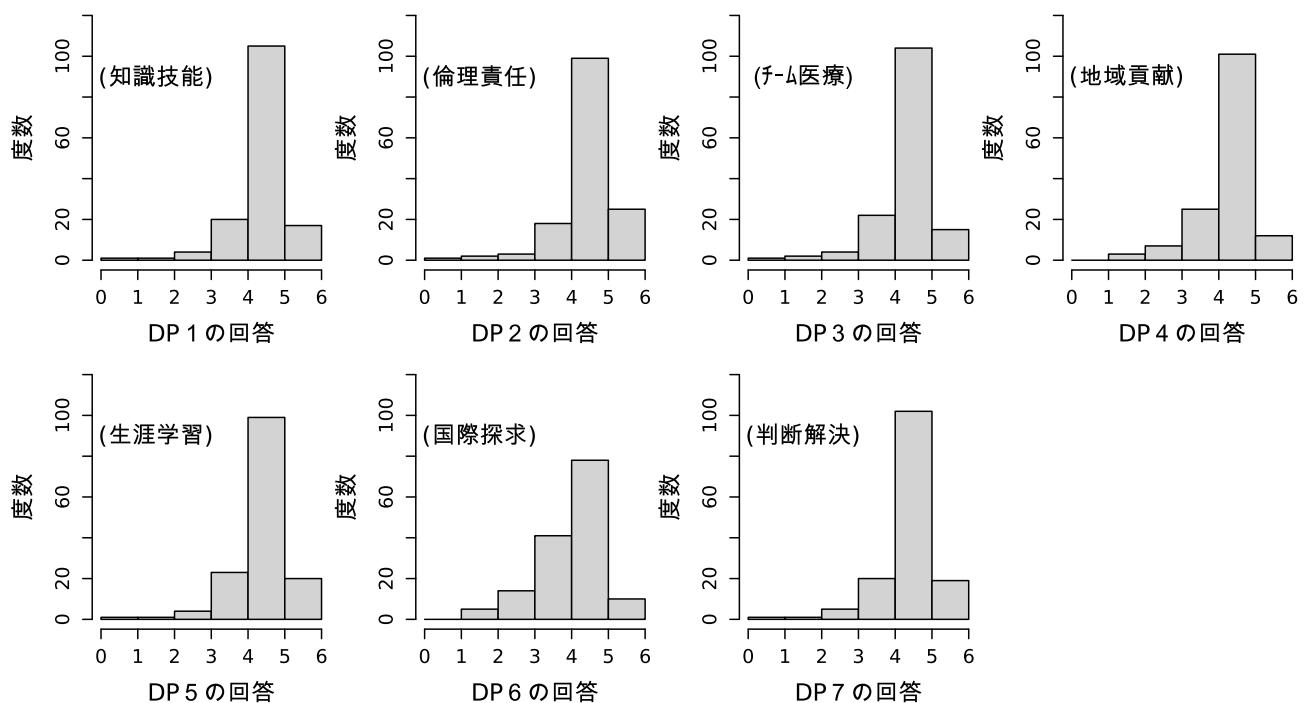


図4－1. 医療検査学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 回答分布

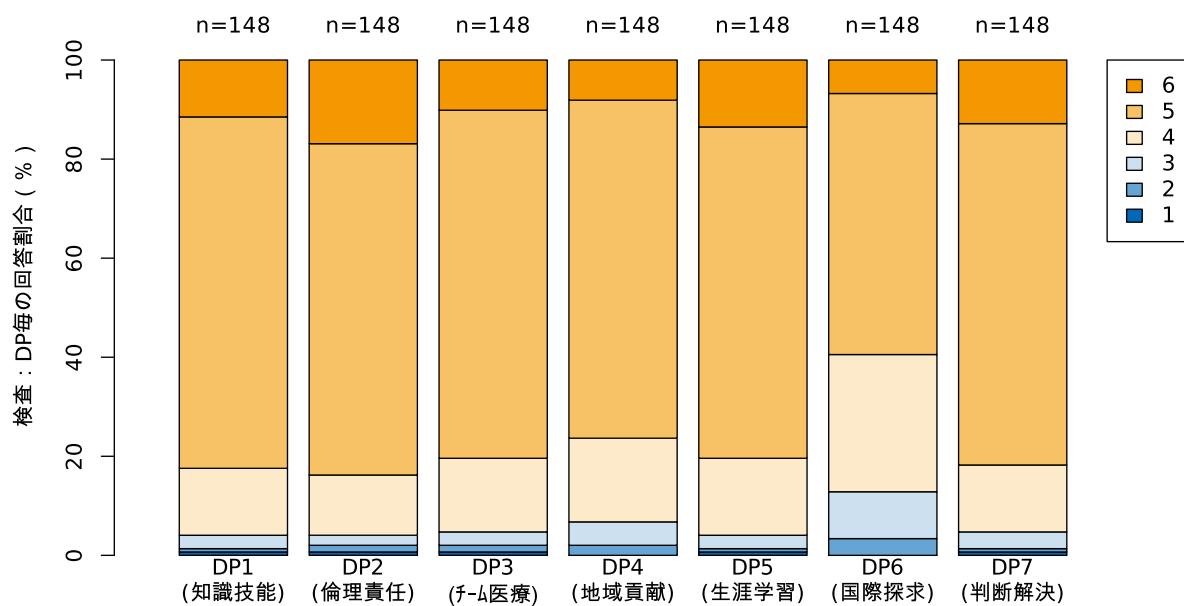


図4-2. 医療検査学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 DP毎の回答割合

表4-3. 医療検査学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量

検査	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6	DP7
平均値	4.88	4.94	4.83	4.76	4.88	4.50	4.88
標本SD	0.71	0.77	0.75	0.75	0.74	0.88	0.74
中央値	5	5	5	5	5	5	5
最大値	6	6	6	6	6	6	6
最小値	1	1	1	2	1	2	1
n	148	148	148	148	148	148	148

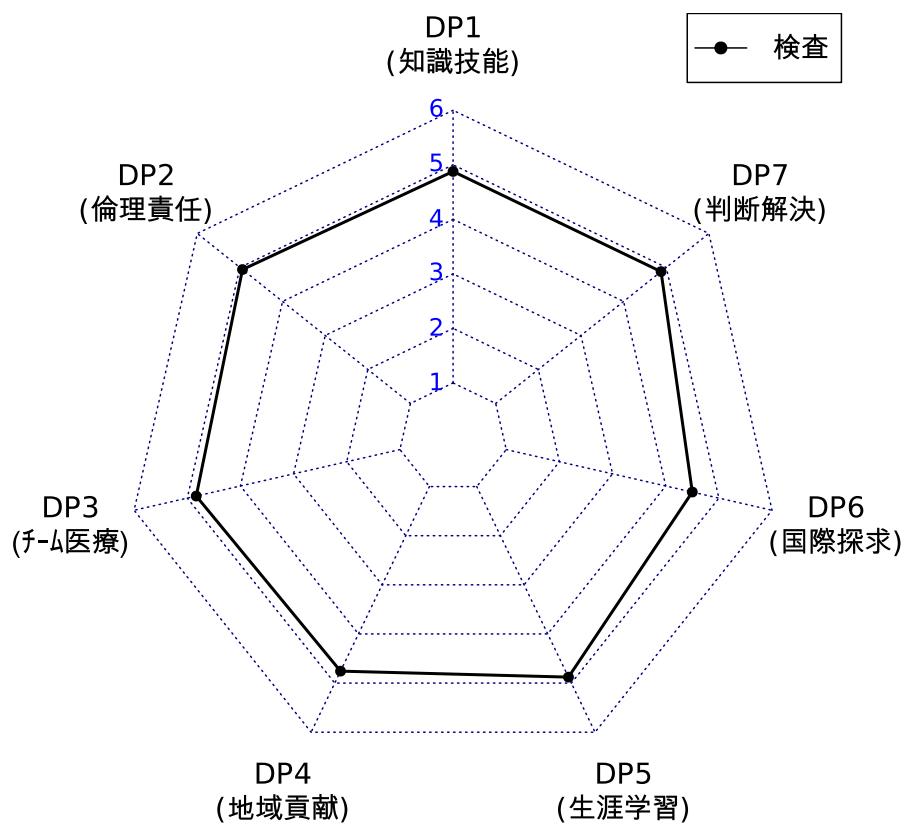


図 4－3. 医療検査学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 評定値の平均値

4-2-2) 放射線学科

アンケート調査項目（放射線学科ディプロマ・ポリシー）を表4-4に示す。

2024年度放射線学科4年生を対象とした放射線学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価について、DP1～DP5に対する評定尺度毎の回答結果（卒業生90名中90件：回収率100%）のヒストグラムを図4-4に示す。各DPに対する回答の割合を図4-5に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、DPごとの平均値、標本標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-5に示す。DP1～DP5について、回答された評定値の平均値をレーダーチャートとして図4-6に示す。

2024年度放射線学科4年生の放射線学科ディプロマ・ポリシーに対する自己評価は、全てのDP項目の平均値において「4：最低水準は修得できた」以上の回答が得られた。また自己評価の中央値は、全てのDP項目で「5：概ね修得できた」となった。

DP1（倫理態度）については「5：概ね修得できた」以上の回答が91%以上、DP2（チーム医療）については83%以上、DP3（知識技能）については68%以上、DP4（判断解決）では73%以上、DP5（国際探求）では63%以上となった。DP5（国際探求）は「3：ある程度修得したが、最低水準には届かない」の自己評価の割合が、約7.8%と多くなった。

表4-4. アンケート調査のDP項目（放射線学科ディプロマ・ポリシー）

DP1 (倫理態度)	医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣いや礼節を身につけることができましたか。
DP2 (チーム医療)	チーム医療の一員として他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、優れたコミュニケーション能力が身につきましたか。
DP3 (知識技能)	診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できる高度な知識と技術が身につきましたか。
DP4 (判断解決)	診療放射線技術科学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を発揮して放射線関連業務に携わることができるようになりましたか。
DP5 (国際探求)	医療科学における真理の探求心と創造力を兼ね備え、診療放射線技術学に関する国際的視野が身につきましたか。

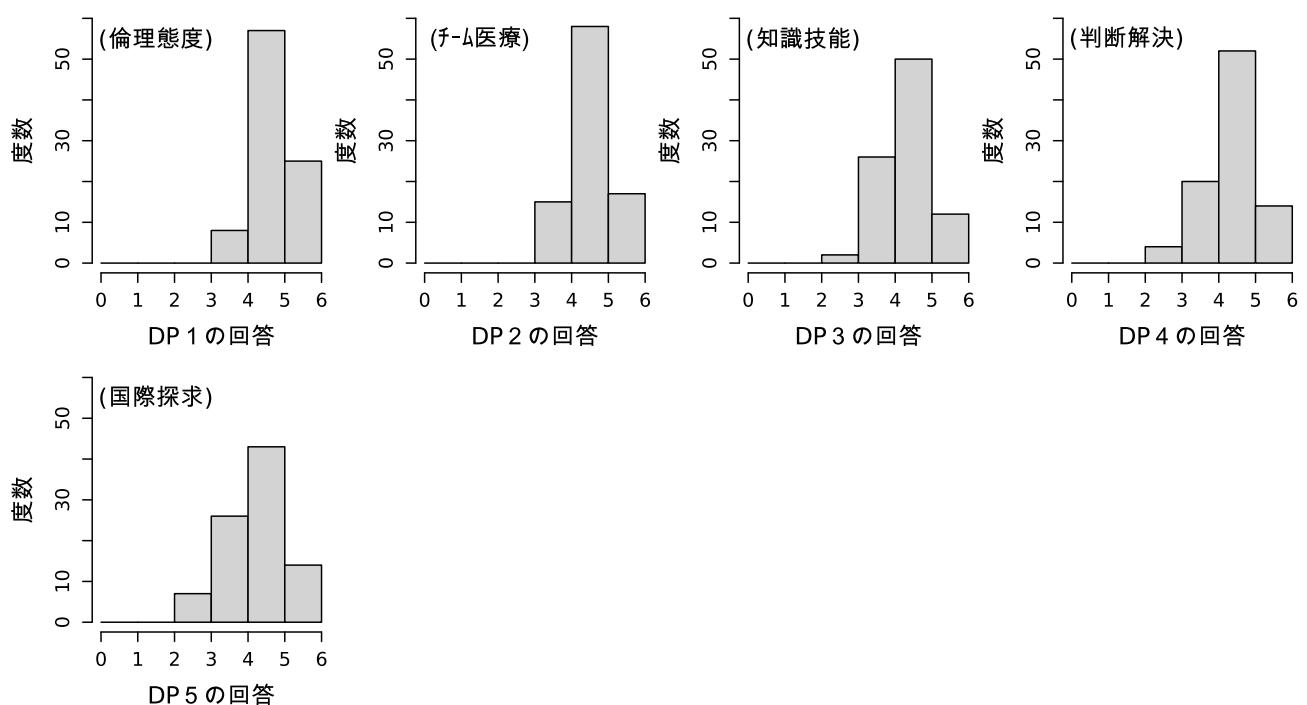


図4-4. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 回答分布

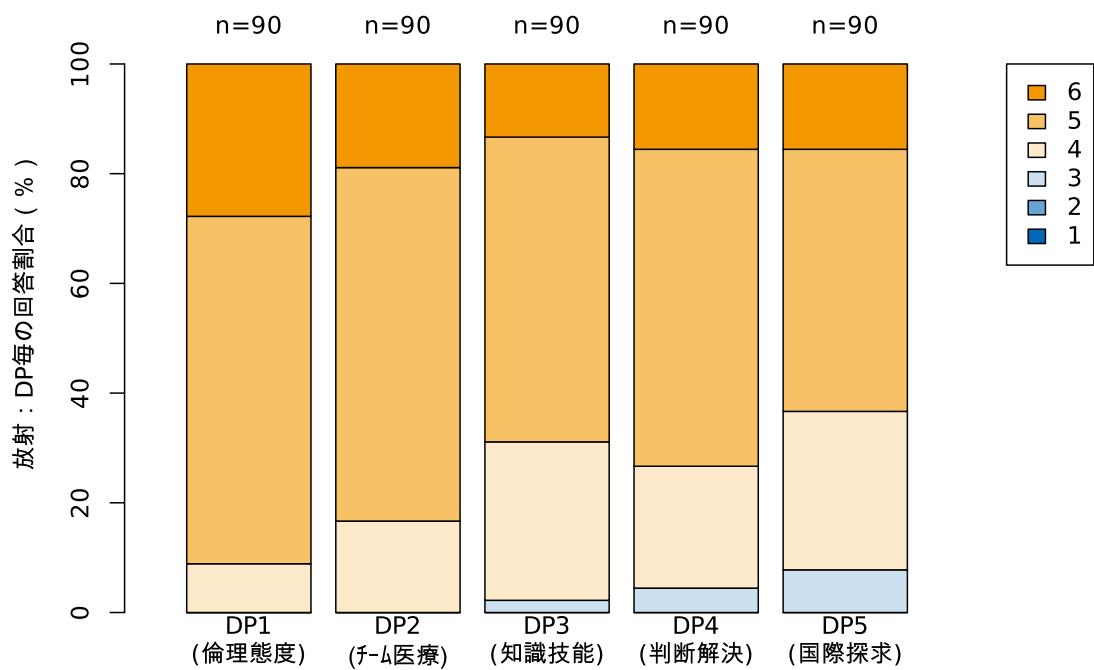


図4-5. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 DP 每の回答割合

表4－5. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量

放射	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
平均値	5.19	5.02	4.80	4.84	4.71
標本SD	0.57	0.59	0.68	0.72	0.82
中央値	5	5	5	5	5
最大値	6	6	6	6	6
最小値	4	4	3	3	3
n	90	90	90	90	90

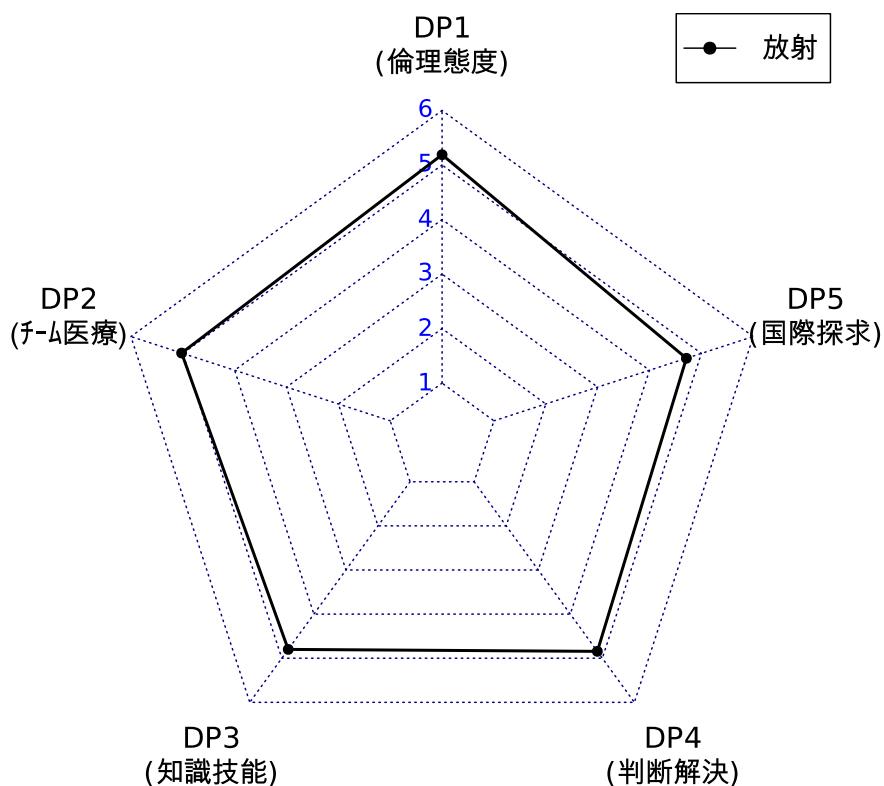


図4－6. 放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 評定値の平均値

4-3) 経時的分析

4-3-1) 医療検査学科

医療検査学科ディプロマ・ポリシーの7項目について、2020年度から2024年度の5年間の学生自己評価による到達度調査の結果について、学生自己評価の平均値の推移を図4-7に示す。なお、2020年度、2021年度は臨床検査学科の卒業生、2022年度から2024年度は医療検査学科（臨床検査学プログラムおよび臨床工学プログラム含む）の卒業生の回答データより学生自己評価の平均値を求めている。

DP1、DP3～7の項目の学生自己評価の平均値は、過去5年間で2024年度が最も高くなっていた。DP2においても過去4年間で、2024年度が最も高くなっている。

医療検査学科ディプロマ・ポリシーの7項目について、2020年度から2024年度の5年間の学生自己評価による到達度調査の結果について、各年の調査における1～6段階の自己評価の回答の割合の推移を図4-8に示す。なお、2020年度、2021年度は臨床検査学科の卒業生、2022年度から2024年度は医療検査学科（臨床検査学プログラムおよび臨床工学プログラム含む）の卒業生の回答データより回答の割合を求めている。

DP1(知識技能)、DP2(倫理責任)、DP4(地域貢献)、DP6(国際探求)については、「6：完全に修得できた」の回答割合が昨年から増加している。特にDP6については、「5：概ね修得できた」の回答割合が2年前から増加傾向にあり、2024年度は「4：最低水準は修得できた」の回答割合を上回った。

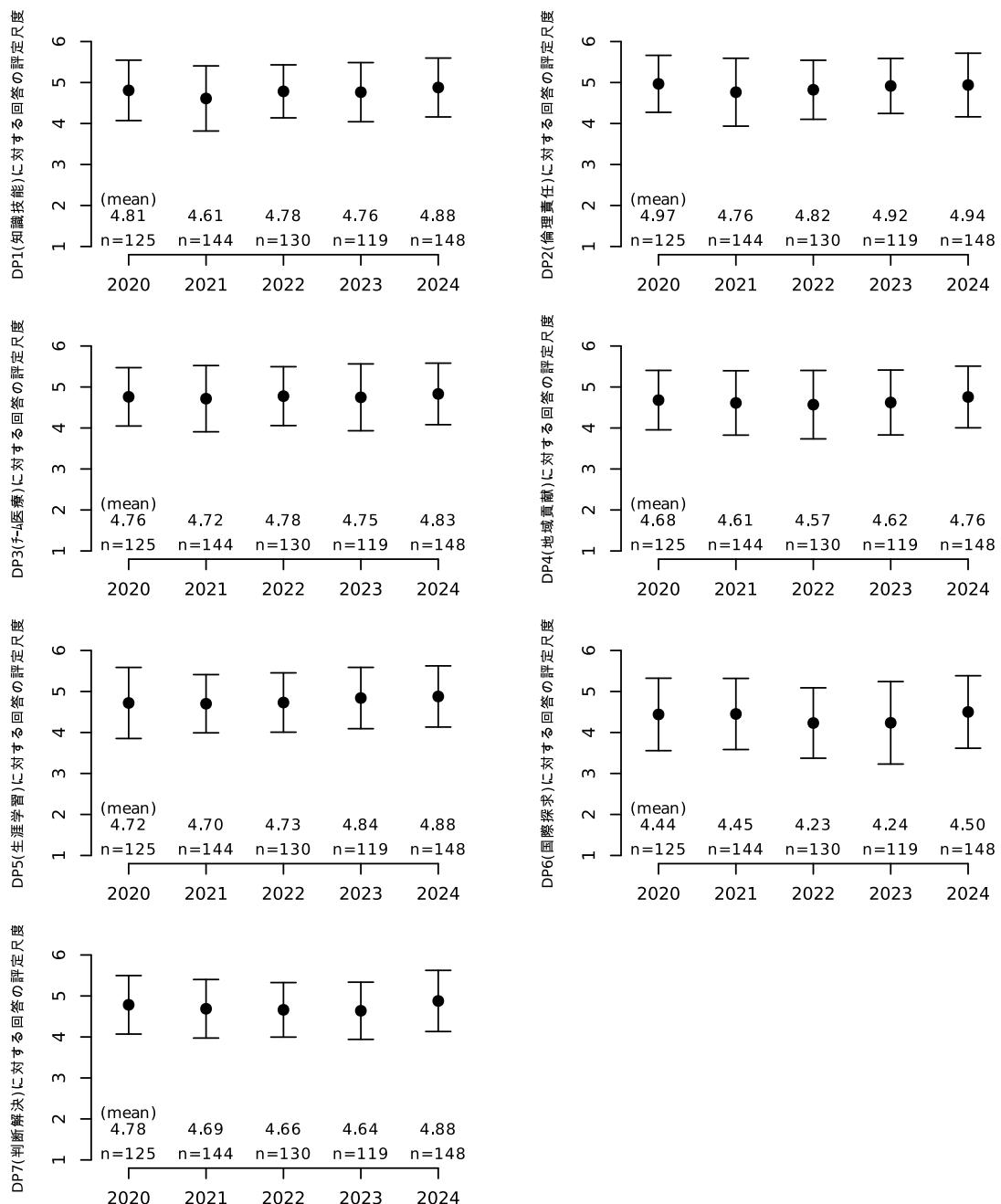


図4-7. 医療検査学科ディプロマ・ポリシーの到達度自己評価（平均値）の推移

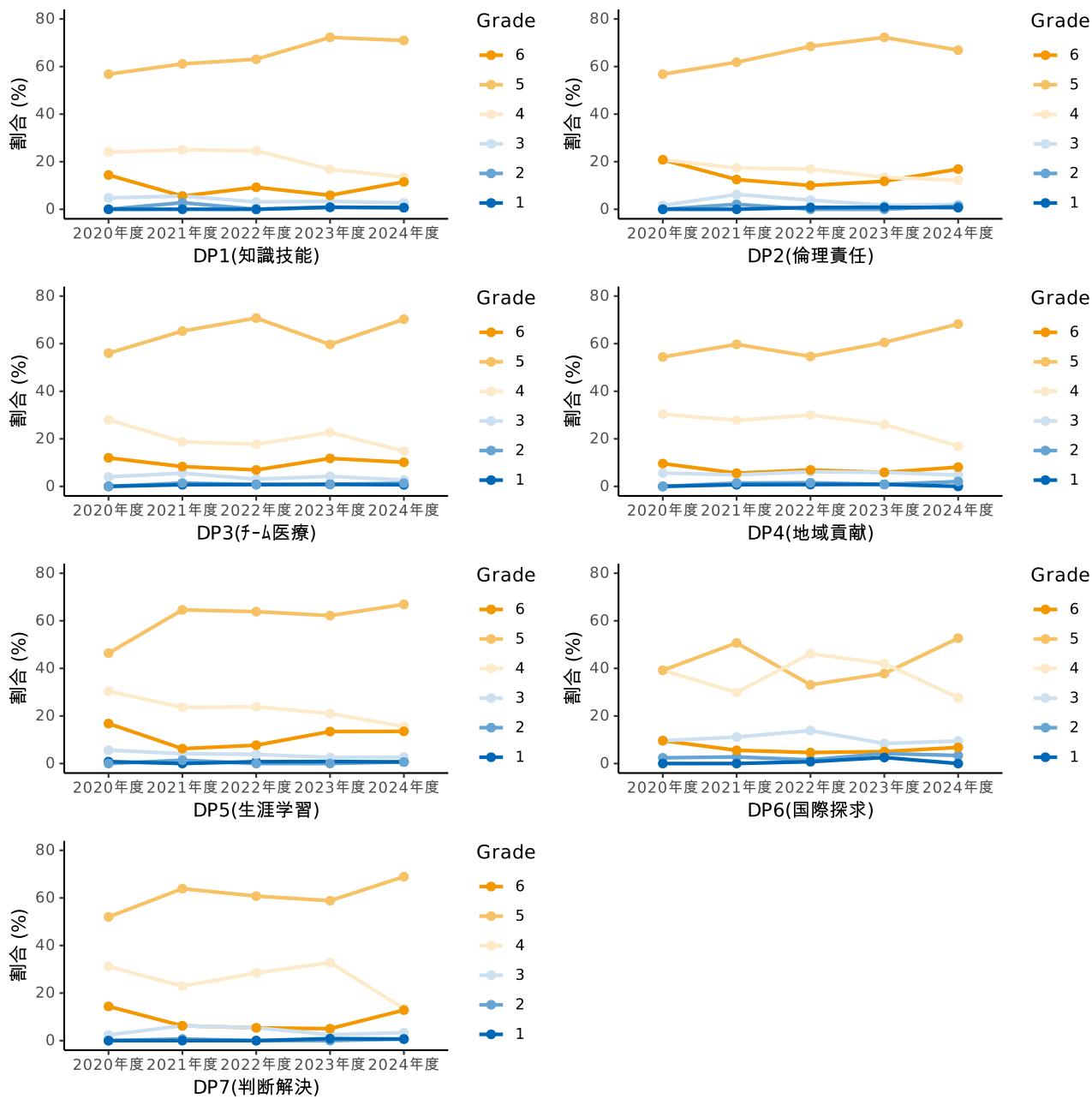


図 4-8. 医療検査学科ディプロマ・ポリシーの到達度自己評価の回答割合の推移

4-3-2) 放射線学科

放射線学科ディプロマ・ポリシーの5項目について、2020年度から2024年度の5年間の学生自己評価による到達度調査の結果について、学生自己評価の平均値の推移を図4-9に示す。

各DP項目の学生自己評価の平均値について、各年度における平均値は全てのDP項目において2021年度でやや低い値を示し、その後、回復傾向が認められた。ほぼ全てのDP項目で2024年度が高値を示した。

放射線学科ディプロマ・ポリシーの5項目について、2020年度から2024年度の5年間の学生自己評価による到達度調査の結果について、各年の調査における1～6段階の自己評価の回答の割合の推移を図4-10に示す。

各 DP 項目について、「1：全く修得できていない」、「2：十分に修得できていない」の回答は経年的な変化は少なく、低い値を示している。2024 年度は 2023 年度に比べ、「6：完全に修得できた」の回答が全ての DP 項目で増加した傾向となった。

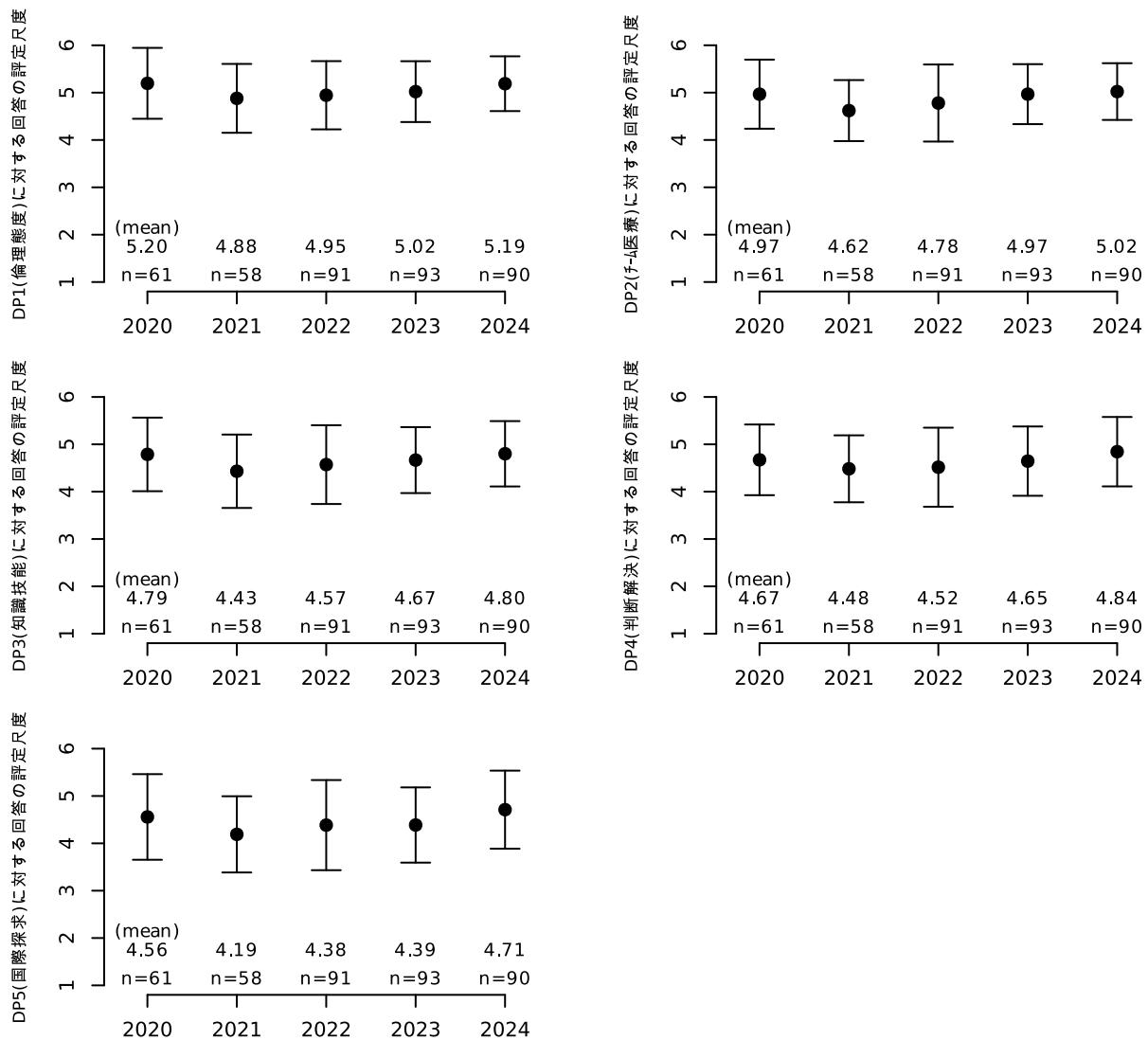


図 4-9. 放射線学科ディプロマ・ポリシーの到達度自己評価（平均値）の推移

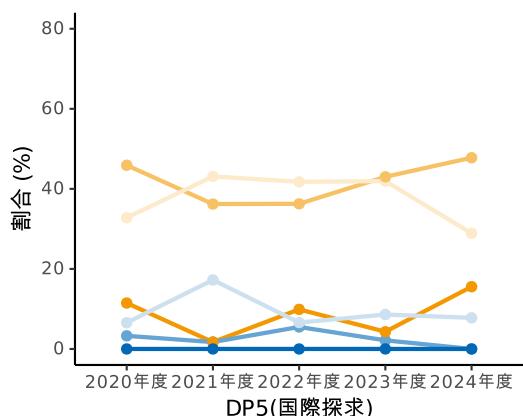
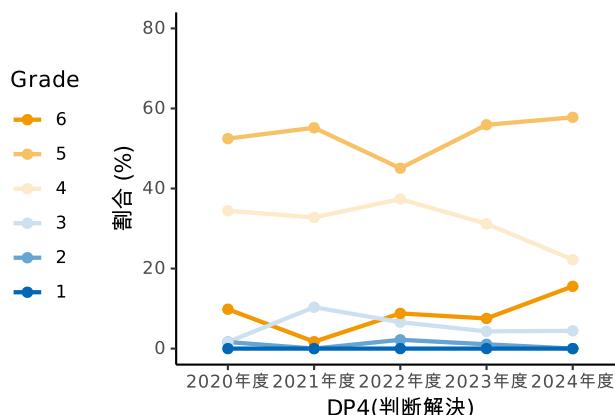
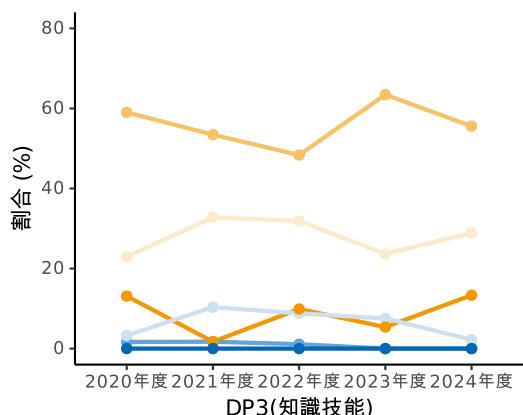
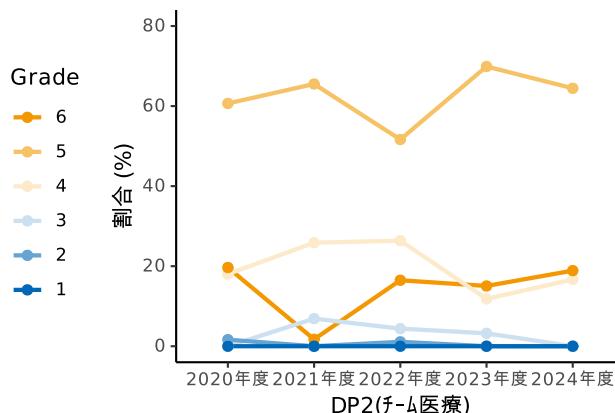
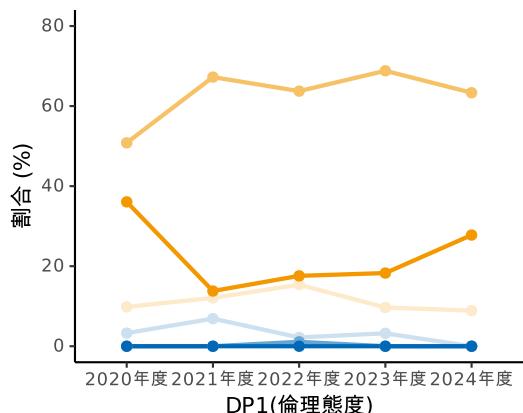


図 4-10. 放射線学科ディプロマ・ポリシーの到達度自己評価の回答割合の推移